

令和2年度 校長通信

Team 陽明



～自主 創造 敬愛 剛健～

沖縄県立陽明高等学校

沖縄県立陽明高等支援学校

発行者 校長 宮城 哲夫

母校を支える先輩方♪

同窓会から扇風機の寄贈！

～各学級・特別教室へ40台～

みなさん、先日は、本校卒業生からのマスクの寄贈の話をしました。またまた、みなさんをサポートするために同窓会からも寄贈がありました。6月1日(月)から通常の授業が始まりましたが、今回はコロナの影響で窓を開け、喚起しながらのクーラーの稼働となるので冷えるかどうかがとても心配でした。そこで大型の扇風機の購入をお願いしたところ、「生徒のためには是非」という、暖かい言葉を頂きました。同窓会のご厚意で購入した扇風機を大事に活用しながら通常授業も頑張っていきましょう！



「生徒指導部や有志の先生方組み立ててくれてありがとうございます！」

スマホやパソコンで

遠隔授業等の配信に向けて

～ OFFICE365 を活用しよう ～

先週の分散登校の際、スマホを持っている生徒に Microsoft Teams をダウンロードしてもらいました。Microsoft Teams は、自宅学習においても課題解説を視聴したり、課題を提出したり、テレビで会議に参加したりすることが可能になってきます。また、1クラスを前半後半に分けた隣合わせの教室で Microsoft Teams を使って HR 活動(役員ぎめ)を実際試してみました。是非、まだ、Teams に参加していない友達にも参加の方法を伝えて下さい。



部活動を頑張っている

生徒のみなさんへ

～アスリートからのメッセージ～



今年は、コロナの影響で全国高校総体や夏の全国高校野球大会が中止になりました。一生懸命、それを目指していた生徒はどんなに悔しい思いをしたことでしょう。

先日、北京五輪陸上男子400メートルリレー銀メダリストの末続慎吾さんが、そんな高校生たちへ向けたメッセージを読売新聞に寄稿した内容の一部を紹介します。

高校総体は、私にとって、必ずしも輝かしいものではなかったが、その後も陸上を続け、日本、アジアで一番になった。そして五輪、世界選手権でメダルを取った。僕はスポーツ選手が持つ夢を叶えた。

でも、同時に夢そのものも失った。叶えてしまったのだから。僕は勝つことだけを、メダルを目指した。勝利やメダルという「結果」が夢だった。でも、その夢を叶えた後、どうしても幸せを感じられなかった。

そして僕が知ったのは、大切なのは夢を叶えたかどうかではないということ。一番大切なのは、「どれだけ真剣にできたか」ということだと知った。

突然、目の前から夢や目標がなくなった時、君は何を思っただろうか？真剣であればあったほど、絶望や虚無感を覚えただろう。でも、これだけは言える。それは君が本当に真剣だったからだ。

絶望を目の前にした今は、本当は君たちにとって一番大切なことを知る時間でもある。

高校総体は中止でも、それだけで人生は終わらないし、全ての答えになることも絶対にない。

今できることを真剣にしていれば、その誠実さを見て、過程を見て、導いてくれる大人は必ずいる。少なくとも僕はそういう大人に何度も救われ、これまで走ってこられた。

だからこそ、今は真剣さを失うな。そして、あきらめるな。

このメッセージが伝えたかった事は、部活生だけでなくすべての生徒にもあてはまると思います。何事にも「真剣に取り組み、あきらめないで前に進み続けること」が人生にとって大事なのですね！

最近の報道で、沖縄県高野連は、沖縄独自の大会を、沖縄県高体連も県高校総体を7月下旬に開催する方向で調整中とのこと。開催されれば、3年生にとっては最後の大会。悔いのないよう全力を出し切って下さい。